

## 広里地域における湿原再生について

農地跡地については、1960年代後半の農地造成以前の湿原状態に再生することを目標とし、ハンノキ林の湿原再生の目標は、調査結果を踏まえ今後さらに検討することとした。

### 平成14年度事業内容（広里地区自然再生事業）

#### 1. 詳細環境調査の実施

植生と地下水動態を中心とする環境条件の関係を明らかにし、再生事業の内容・手法を検討するため、事業地内で詳細環境調査及び地区内で生息している希少なタンチョウ、キタサンショウウオの生息実態や特性を把握する調査を実施した。

詳細環境調査 地形・地質調査、地下水位・地下水質調査、河川水調査、土壌水調査、  
生物調査（植物・動物）、気象調査

タンチョウ 行動圏調査、餌資源調査

キタサンショウウオ トラップ調査、テレメ調査、食性調査、分布調査、HEP解析（生息環境の評価）、年齢調査

#### 2. 調査結果に基づく各種実験の実施

##### （1）農地跡地の湿原再生試験（地盤掘り下げ試験区）

###### 再生試験区の設定

- ・ Bライン上の農地跡地部分に3箇所の再生試験区（調査区）を設置。
- ・ それぞれ植生・水位・地盤高が異なるため、処理後の影響を地点間で比較。
- ・ 1調査区（30m×35m）には4タイプ（1タイプ：5m×20m）の処理を行い、1タイプ当たり5コドラート（1コドラート：1m×1m）を設定。

タイプ Type A 無処理区（コントロール）

Type B 地盤の掘り下げ区 播種なし

Type C 地盤の掘り下げ区 ヨシの播種有り

Type D 傾斜掘り下げ区

- ・ 明渠の堰止め

標準区の設定 事業地内のムジナスゲ - ヨシ群落内に設定

##### （2）ハンノキ伐採試験区

###### 調査区の設定

- ・ Bライン付近のハンノキ樹高が高い群落と低い群落の2箇所に調査区を設置。
- ・ それぞれ伐採、非伐採の処理区（1処理区：25m×25m）を設け、Bラインのハンノキ林縁部に2地点のチェックプロット（10m×25m：各処理区での伐採が地下水位や水質に及ぼす影響を調査）を設置。
- ・ 1調査区に小調査区（5m×25m）を5つ設定。

## 平成15年度事業内容（広里地区自然再生事業）

### 1．農地跡地における試験的事業の内容

#### （1）農地跡地の湿原再生試験（地盤掘り下げ試験区）

平成14年2月、農地跡地の地盤掘り下げを行った箇所について、平成15年5月より、植生回復状況の調査を行っている。

##### 調査内容

##### ・コドラート単位

地下水位、土壌水分、土壌水水質、植生調査

##### ・各処理エリア（試験区）単位

地下水位、土壌水分、地温、土壌水水質

##### ・その他 蒸発散量、降雨、気温、湿度

##### \*リファレンスサイト（標準区）の状況と比較

#### （2）明渠の堰止め

平成14年2月、明渠を堰止めしたEライン付近について、平成15年6月より、既存の観測ポイントを利用し、地下水位の測定や植生への影響調査を行っている。

### 2．ハンノキ林の追加調査

#### ハンノキ伐採試験区

平成14年2月、ハンノキの伐採試験を行った箇所について、平成15年5月より、湿原環境への影響調査を行っている。

##### 調査内容

・土壌水質、地下水質、土壌水分、地下水位、蒸発散量、地温、気温、湿度、

樹冠雨の水量・水質、樹幹流の水量・水質、照度

・下層植生の現存量、成長量、枯死量、樹冠投影図

・降雨量など

### 3 モニタリング調査（地域全体を対象としたもの）

平成14年度に行った詳細環境調査のうち、必要な調査項目について引き続き平成15年6月よりモニタリングを実施している。

・地下水水位観測、河川流量観測、昆虫類調査、土壌動物調査

・タンチョウ及びキタサンショウウオ調査

### 4 事業地周辺での環境調査

広里地区自然再生事業の実施が事業地周辺へ与える影響及び、今後の事業展開を検討するため、対象範囲を広げ調査を実施する。

・地下水位観測 7月～11月 28地点

・河川・明渠排水路水位観測 7月～11月 36地点

・魚介類調査 夏季及び秋季 旧雪裡川において6区間を設定 定量採取法

- ・底生動物調査等 夏季及び秋季 旧雪裡川において6区間を設定 定量採取法

## 5 ハンノキ・ワーキンググループ

専門家や行政機関等の関係者が集まってハンノキ対応の考え方についての議論を深めるため、ワーキンググループを設置した。

(検討事項)

- ・ハンノキの生態、生育適地、更新のプロセス
- ・人為的要因による拡大メカニズム
- ・ハンノキ拡大が及ぼす湿原への影響